

障害者サービス・多文化サービス

<障害者サービス>

- ・市内在住者で、身体上の都合で来館できない方に、郵送または宅配により自宅まで資料を貸出している。動く図書館のステーションから宅配をおこなう場合もある。
- ・視覚に障害がある方のために、録音図書（音訳図書やデージー図書）・点字図書を収集・貸出している。全国の障害者サービスを行う図書館と協力貸出をおこなっている。
また、直接資料（お手持ちの資料・パンフレット等も可）を読む対面朗読も実施している。
- ・このサービスは、利用者の事情や要望にあわせて行なっていくものであるが、今後潜在的利用者へのPRを工夫していきたい。
- * 音訳図書 = 目の不自由な方などのためにカセットテープにふきこんだもの
- * デージー図書 = CD-ROMに音声情報を記録したもの
- ・耳の不自由な方には、手話・筆談等による対応を可能なかぎり行っている。また、千里・高川・蛍池図書館には、磁気ループを設置している。
- ・小さい文字が読みにくい方のため、全館で大きな活字の本を収集・貸出している。岡町・庄内・千里・野畑・高川・蛍池図書館に拡大読書器を設置している。
- ・録音図書、点字図書を作成するボランティアグループの活動を支援している。
（音訳ボランティアフォローアップ研修講座の開催や、録音図書の著作権許諾手続き等。）

<多文化サービス>

- ・岡町図書館・こども室の「世界のこどもの本の部屋」において、世界の色々な言語で書かれた子どもの本を収集・貸出している。
- ・外国語(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・タイ語・フィリピン語)の利用案内を作成中である。
- ・岡町・庄内図書館で行っている「おやこでにほんご」では、ボランティアととよなか国際交流協会が中心となり、豊中在住の外国人の親子の情報交流や、日本語を学ぶ機会づくりを提供している。
- ・岡町・庄内図書館では、外国人の方による母語での絵本の読み聞かせや手遊びなどをする「外国語のおはなし会」を行っている（不定期）。
- ・一般成人向けの多言語資料については、現状では十分にとりくめていない。今後の課題の一つである。

広域利用サービス

平成 15 年 5 月蛭池図書館オープン時から豊中市と箕面市萱野南図書館の、館限定で始めた広域利用サービスは、平成 18 年度途中の 3 月 15 日から豊中市の千里図書館、箕面市の西南図書館を追加し、広域利用の試行期間を平成 23 年 3 月までと延長した。1 人 5 点、2 週間借出すことができる。予約は現在受付けていない。

平成 20 年度の蛭池図書館から箕面市民への貸出は 1,392 点、千里図書館からは 14,037 点(対前年比 293%)、箕面市の萱野南図書館から豊中市民へは 11,855 点、西南図書館からは 13,722 点である。千里図書館での利用が伸びたとはいえ、豊中市民と箕面市民の図書館利用格差の問題が残されている。ただ、千里図書館リニューアル以降、箕面市民の登録が日々増加しているため、この点については今後の動向に注目していく必要がある。

箕面市の豊中市民の利用状況については、「貸出は、萱野南図書館・西南図書館ともそれぞれご近所にお住まいの方が、土日祝日を中心に月平均二百人程度利用しています。実施以来、利用冊数は着実に増加しており、館内利用も含め、今後も近くにある図書館の利用が増えていくものと思われまます。」とのコメントを箕面市の図書館からいただいた。

他施設へのサービスと連携

<行政関係>

豊中市役所内各部局へのサービスとしては、主に参考室からレファレンスを中心としたサービスを提供している。内容は豊中市に関連する調査、リストの作成、新聞記事検索、市内未所蔵資料の借用手配(相互貸借)、講師依頼の連絡先調査、岡町図書館寄託古文書の借出、行事での展示本・関連図書の検索と貸出などである。

参考室で連絡を受け、提供したサービスは 18 件である(市史編さん室の通常的な来館での対応や、図書館のホームページで事前の検索を行って直接来館し、借用されるケースなどは含まれていない)。

一昨年、部課長会において参考室業務の PR をおこなったが、今後新たに e - レファレンスの開始や新聞記事検索システムの稼働なども予定されているので、それらのツールをもつ図書館を活用してもらうことで各部局の業務課題の効率的解決に寄与できることを伝えるべく、まだ利用のない部局への利用促進も含めて再度の PR 活動を行いたい。

<高齢者施設関係>

庄内図書館では高齢者施設への貸出しやリサイクル図書などの配本を不定期に行っている。リサイクル図書や保存年限の過ぎた雑誌などの配本先は、「庄本老人憩いの家」「特別養護老人ホーム 淳風とよなか」の 2 施設。年に 2~3 回、約 300 冊を配本している。

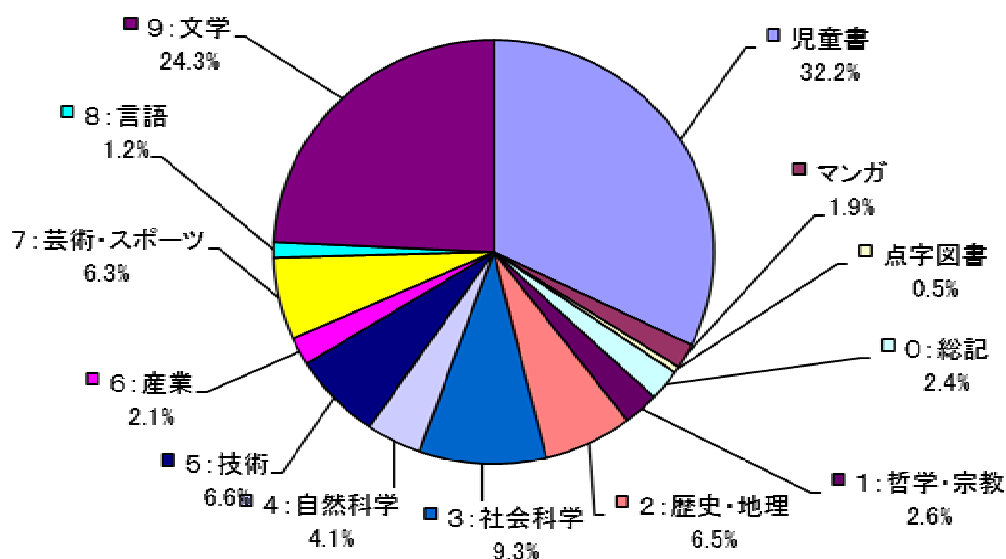
「ほづみ老人ディケアサービスセンター」へは、全館から集められた資料を、年 2~3 回約 800

冊貸出している。その他、各館では最寄の高齢者施設から来館による貸出も随時行なっている。しかし、高齢者施設が増加していくに伴い、資料を提供するための体制整備が今後の検討課題である。

資料の収集と保存

職員で構成する選書委員会（6名）が、毎週1回、市内全図書館の資料の選書を行っている。選書にあたっては、市民の知的自由を保障し、人間的・文化的教養の醸成を支え、課題解決に資することを基本姿勢としており、教養・調査研究、レクリエーション、ビジネス、日常生活に役立つ資料などを収集し、各世代の幅広い要求に応えるよう努めている。また、資料の効果的な運用・保存にも努めている。

「図書」所蔵冊数(全館)分類別比率



行事・事業 情報の提供

開館30周年を迎えた千里図書館では、リニューアル後ヤングアダルト(YA)に向けて積極的に働きかけている。香月日輪さんを招いた講演会では、市民や学校司書と企画準備段階から一緒になって取り組み、中学生はじめ多くのYAの参加があった。

また野畑図書館は20周年、東豊中図書館は15周年、服部図書館は10周年、それぞれ開館を記念する行事を実施した。「えいごでおはなし会」や「山下亮輔・自著を語る『18歳の生存者』」「クリスマス・ジャズ・コンサート」「ピヨのたのしい人形劇」「はっとり寄席」等、多彩

な内容で実施した。

豊中市は「人権文化のまちづくり」をすすめており、図書館でも人権講演会やパネル展を開催している。平成20年度は講演会「共に生きる社会をめざして」(高川図書館)「部落史に学ぶ」(千里図書館)を開催し、個人が尊重される地域社会のあり方について市民とともに考える場をもった。さらに蛸池図書館では「であい・ふれあい大賞」に参画し、「心に残るだれかのことば」「だれかに伝えたいことば」の作品展には多数の市民が鑑賞に訪れた。

各行事に合わせ、あるいは季節や時事問題にちなんだテーマを設定し、図書館の資料を展示・貸出しすることは、市民への情報提供の一形態として行なってきたが、平成20年度はそれに加えて前年度の「図書館サービス向上委員会」の提案を受け、企画グループが主担となり「特集展示」を試みた。9つのテーマを決め、各テーマの資料展示がおおむね月ごとに各図書館を巡回していくという仕掛けにすることで、従来は各図書館での取組みにおわっていた資料の展示を全図書館で共有することができた。また、よりひろくPRするため図書館ホームページに「特集展示コーナー」を設け、展示資料リストの閲覧・予約ができるようにしている。平成21年度は図書館利用マナー向上のための展示のほか、あらたに9つのテーマの資料セットをつくり、ひきつづき実施する。

平成20年度の行事については、以上を含め20項目2,040事業を開催し、延べ参加人数は44,510人だった。多くの事業で市民の参加と協力があり、市民参加・連携・協働など事業をとおり地域の活性化に向けて取り組んだ。今後も、こうした視点で図書館サービスの一層の深化へとつなげたい。

特 集 展 示 テ ー マ

平成20年度(2008年度)実施

アフリカへようこそ 映画化された本 錯覚を楽しもう! 食の安全・食育 先人の知恵
地球温暖化 脳の活性化 秘密の本 防犯・セキュリティ

平成21年度(2009年度)予定

海 裁判員制度スタート 作家の親・子ども・孫 習慣術 ちょっとの工夫でエコライフ
野菜はおいしい ユニバーサルデザインってなに? 理数系パンザイ 和で暮らす

全行事の合計(リサイクル本販売を除く)	2,040	44,510
しょうないREK (リサイクル本販売)	41	2,496
総 合 計	2,081	47,006

市民活動支援

<読書会>

4人以上のメンバーで読書活動を行なうグループに対し、一度に複数の本を貸出している。図書館から16の読書会グループに、962冊を貸出した。会場として集会室等を提供している。

近年、資料の複本購入数が減少しており、府立図書館ほか近隣の自治体においても資料費削減の傾向は同様で、希望された本をまとまった冊数提供することが徐々に難しくなっている

<図書館関係団体・グループ>

豊中子ども文庫連絡会（以下「豊子連」）と連携し、例会の中で情報共有し、様々な取り組みをともに行っている。4か月児健診会場での取り組み「えほんはじめまして」へのご協力の他に、平成20年度は共催事業「子どもと本のつどい」として児童書の作家や児童精神科医による講演会を行った。また豊子連のほか、おはなしボランティアポケットや（特活）国際交流の会とよなかTIFAによる協力も得て、おはなし会やてづくり遊びの会「子どもと本のまつり」を岡町図書館で開催した。

平成20年12月には千里文化センターコラボにて豊中市教育委員会と学校図書館を考える市民の会が共催し、小中学生に人気の作家香月日輪さんによる講演会を行った。さらに豊中図書館を考える未来の会と冊子「豊中の図書館活動平成19年度版」について、より内容の充実をめざし、意見交換を行った。

<おはなしボランティア>

読み聞かせボランティア講座として「子どもと本をつなぐボランティア講座」、「学校における読み聞かせボランティアバックアップ講座」、および活動を継続されているボランティアのフォロー事業として、「おはなしボランティア・フォローアップ研修講座」を実施した。さらに地域でのボランティア活動を活性化するため、市内4地域で「子どもと本をつなぐ地域交流会」を実施した。交流会では地域の課題を共有し、情報交換する場となった。交流会にはボランティアを始めたい、子ども文庫を開きたいなど、様々なニーズをもった市民が参加され、各団体を紹介することで活動支援の場ともなっている。

また岡町図書館では「高校生のための読み聞かせボランティア講座」を実施し、高校生が読み聞かせを通じて、地域の中でボランティア活動をおこなうきっかけになっている。庄内図書館や高川図書館では中・高校生や大学生が紙芝居ボランティアとして読み聞かせの活動に参加している。

平成17年度よりこのようなボランティアを支援する講座への参加者は増加傾向にあり、今後も資料や情報の提供を行うなど、継続的な支援を行うことが必要である。

<音訳・点訳ボランティア>

録音図書、点字図書を作成するためボランティアグループに協力していただき、図書館において音訳ボランティアフォローアップ研修講座の開催や、録音図書の著作権許諾手続き等を行い、集会室の提供・情報の提供など、その活動を支援している。

音訳ボランティアフォローアップ研修講座 2回 参加人数16人

音訳ボランティア例会 11回 (毎回職員が事務連絡のため出席する)

著作権処理件数 78件

<集会室の提供>

市民のグループ活動のために集会室を提供している。図書館の主催行事がない時、社会教育活動関連グループ優先で集会室を提供している。9館全体で2,310回35,612人の利用があった。地域コミュニティ活性化への支援として、今後も有効利用をはかりたい。